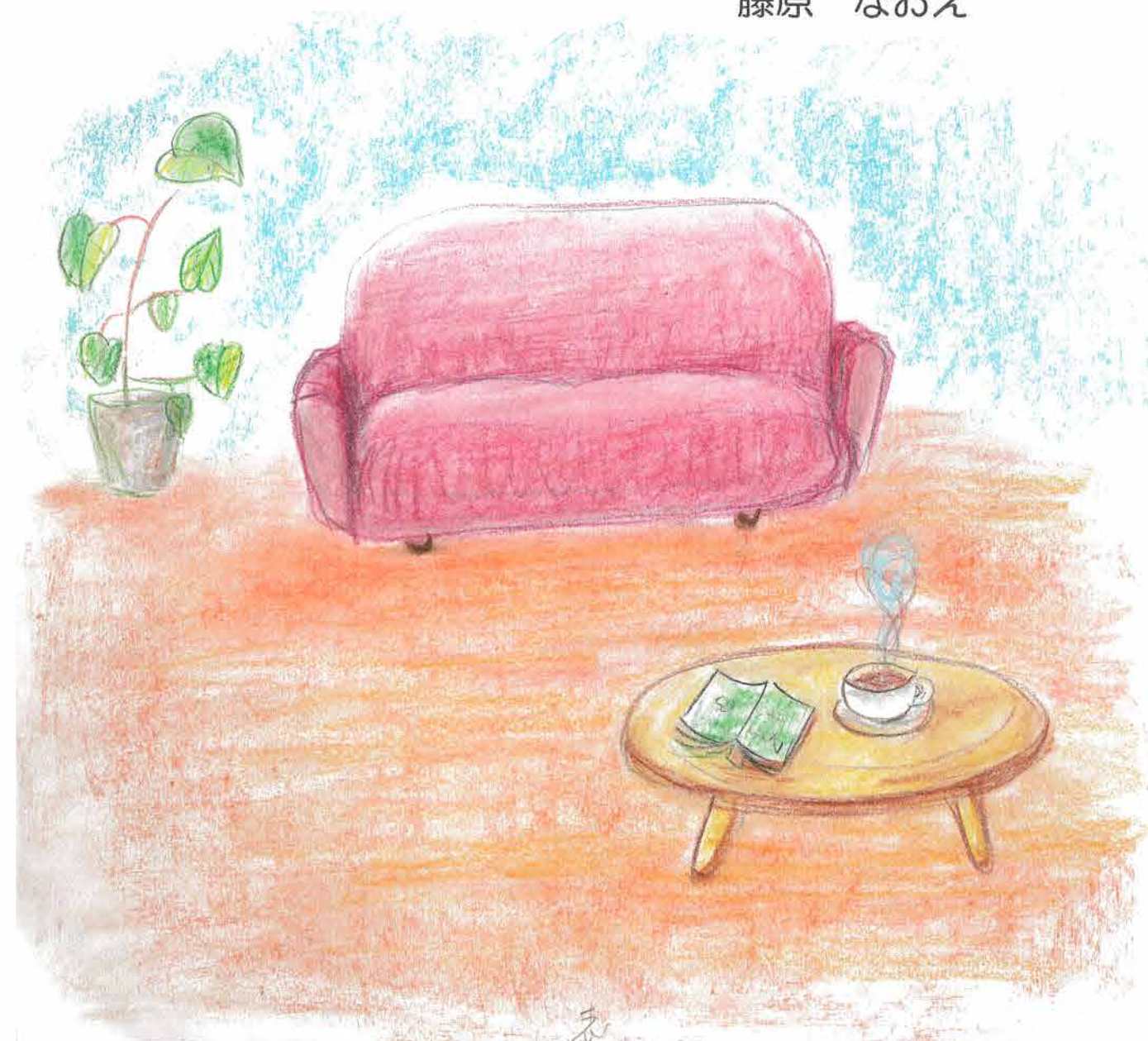


すばらしいソファー

藤原 なおえ



ある日、ごみ置き場にソファがひとつすてられていました。
それは、とてもきれいな新しい赤いソファでした。



しばらくすると、ソファーはしゃべりだし
「まったく！やんなっちゃうよ。
ぼくがゴミだなんて！
ぼくは、りっぱなソファーなんだ。
ぼくはオシャレなトップグレードの
すばらしいソファーなんだ。



そこへ、トラックが一台、とまりました。
ひとが2人あらわれて、ソファーに青いカバーをかけ、
トラックに積み始めました。

「何をするんだよ！ぼくは、ゴミじゃないぞ！
ちょっとやめてくれよ。たすけてくれー！」

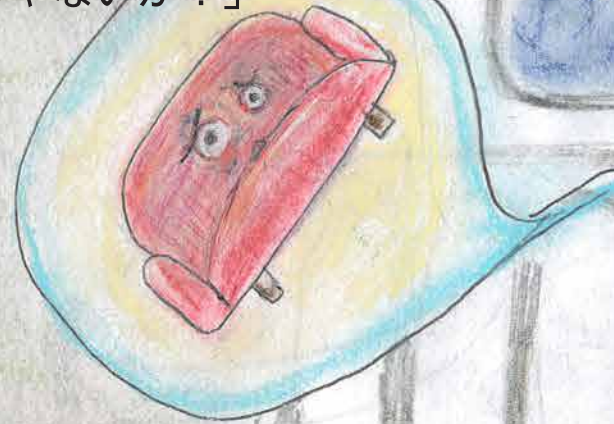


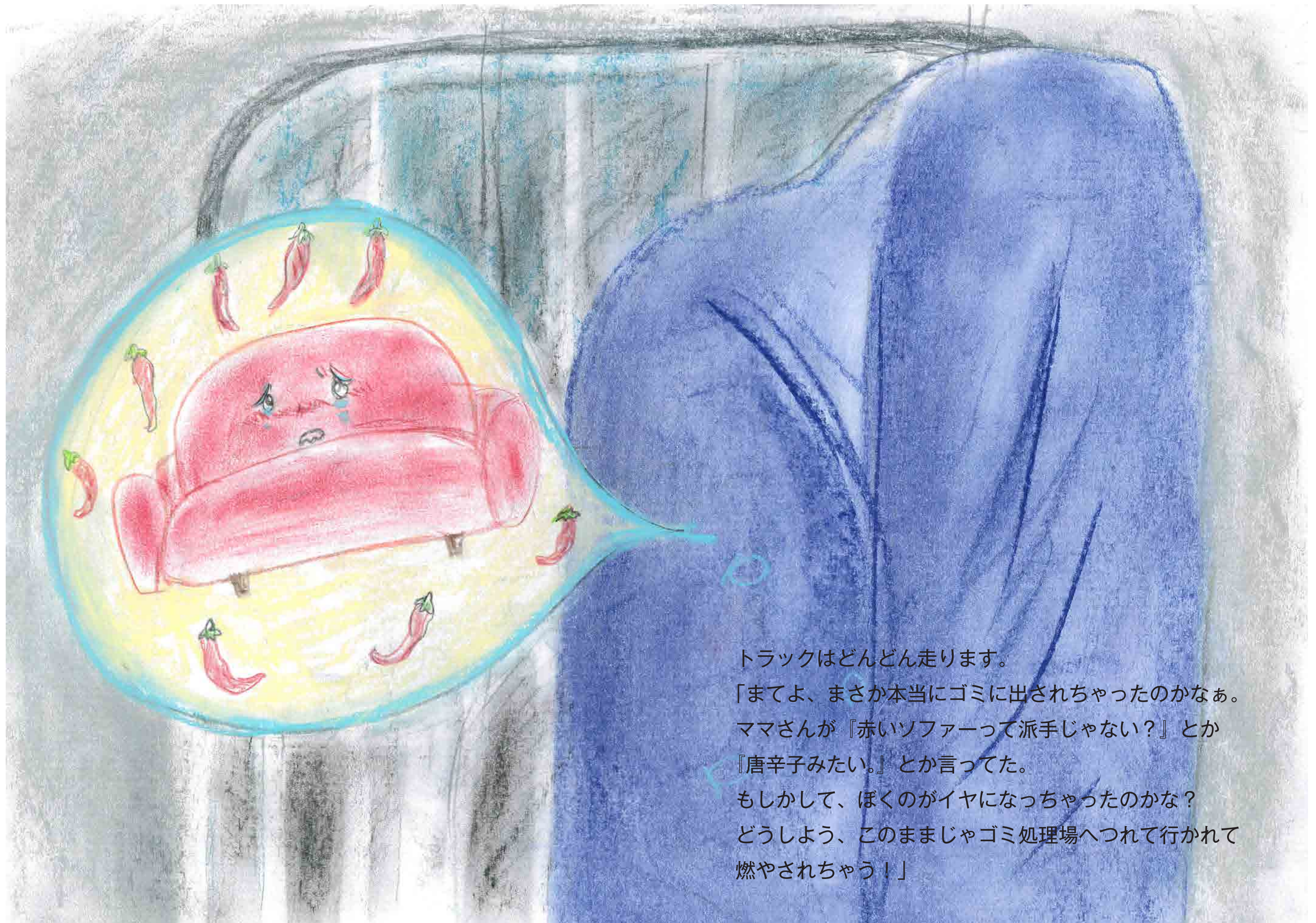
ソファーはトラックに積まれてはこばれてしまいました。

「もごもごも、しゃべりずらいな！なんだこのカバー！

ぼくをゴミと間違えてるんだな！

おい！こんなにすばらしいソファーが
ゴミなわけじゃないか！」





トラックはどんどん走ります。

「さてよ、まさか本当にゴミに出されちゃったのかなあ。

ママさんが『赤いソファって派手じゃない?』とか

『唐辛子みたい。』とか言ってた。

もしかして、ぼくのがイヤになっちゃったのかな?

どうしよう、このままじゃゴミ処理場へつれて行かれて

燃やされちゃう!」

だんだん焼却場が近づいてきました。
ソファーはメソメソと泣きながら
「あー、もうぼくは、燃やされて粉々の灰になるんだ。
もしかして、パパさんママさんがゴミにだしたんだ。
きっとぼくをイヤになったんだ！」



トラックは、どんどん走りました。
やがて焼却場の前を通り過ぎ、さらにどんどん走りました。
「あれ、ゴミ焼却場をとおり過ぎたぞ??」



しばらく走った後、車は、
丘の上の赤い屋根の家のまえでとまりました。



トラックから、先ほどソファを運んだふたりがでてきて、
ソファをおろしました。
「ここはどこだ？ぼくはいったいどうなっちゃうんだろう！
どこへつれていくの？」





ソファは、家のなかに運ばれました。
はこび終わったときカバーがはずされました。
「え？なんでここに、パパさんとママさんたちが？」
もとの家の家族が目の前にすわっていました。
ソファはとてもおどろきながなんだかわかりません。

そのとき、ソファをはこんできたひとりが、
「これで、引っ越しのにもつをぜんぶはこびお
わりました。それと、このソファにこんな
紙がはられていましたよ。」といって、家の人
に『ゴミ』と大きく書かれた紙をわたしました。

「『ゴミ』 ゴミだって？！ひどいな。
このソファはぼくたちのとても大切な、
すばらしいソファーなんだ！」

赤いソファは、それを聞いて、
はじめて自分が引っ越しではこばれていた
だけだったことに気づきました。

「ぼくはすてられたんじゃないんだ！
パパさん、ママさん、うたがってごめんなさい。
ぼくを大切に思っていてくれてありがとう。
ぼくは本当に最高にすばらしいソファーだ！」

赤いソファは、あたたかい家族とまた、幸せに過ごしました。



おしまい

NOYES
SOFA 100%

2018 年 2 月 17 日発行

著者 藤原 なおえ

発行者 株式会社 NOYES

第 6 回 NOYES 絵本コンクール 大賞作品